

やくすえ あきら
弥久末 顕

●基幹労連・事務局長

“光陰如矢時不待人” 新年に想うこと

ご安全に。

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

皆様におかれましては、平成最後のお正月をご家族やご友人と健やかに過ごされたことと思います。

2019年が皆様と働く全ての仲間、そしてご家族にとって輝かしい一年となりますこと、心より祈念申し上げます。

私が基幹労連事務局長の任に就いて、早や1年4ヶ月が過ぎ去りました。まさしく“光陰如矢”の一年間、あっという間に過ぎ去った2018年でした。

振り返れば、2008年9月に基幹労連に中央執行委員として着任して以降、2010年からは事務局次長として、2017年秋までの7年間、主に産業政策、政策・制度や政治・国際関係の仕事に従事してきました。昨年9月でまる10年が経過しました。

新年早々、話題としては相応しくありませんが、平成最後の年のスタートにあたり、今までの10年間を振り返りながら雑感を記させていただきます。「事後笑諾」をお願いします。

私が基幹労連で仕事を始めて直ぐにリーマン・ショック、世界規模での金融危機が発生しました。

今まで経験したことのない世界的な危機が蔓延する環境下で、私たちの産業・企業の業績や行く末にこの問題がどのような影響を及ぼすのか、大きな不安と悩みを抱えながら担当業務に就きました。

私の当時の主たる業務は、産業政策、政策・制度の企画・立案でした。どのような政策課題の提起が当時の状況下で最適なものとなるのか、仲間と熱のこもった討議を繰り返したことを昨日のように思い出します。特に、昨年末の臨時国会でも大きな論争になった外国人労働者問題に関して、基幹労連は2010年当時より重要な課題として取り上げ、真の国際貢献活動でなければ外国人労働者の受け入れは認められないこと、労働者としての各種権利を確実に保障することが最低限の条件であること、そして単純労働者としての受け入れは絶対行わないこと等、政策の大きな柱として取り組んできました。今日現在も基本的な方向性は変わっていません。

また、政治、特に国政については、2009年に旧民主党が政権与党となって以降、各省庁の大臣に直接、政策要請を行い、結果として基幹労連が掲げる多くの政策課題が前進した時期でもありました。

この成果は、2017年秋にご勇退された基幹労連組織内議員、高木義明前衆議院議員のお力添えの結果であることは紛れもない事実であります。組織内議員の重要性、必要性を強く認識された一時期でもありました。

ちなみに、高木義明前衆議院議員は昨年の秋、旭日大綬章の栄に浴されました。私たちにとっても大変な慶事であります。

その後、民主党は民進党に、そして希望の党や立憲民主党、無所属と分裂し、昨年5月の国民民主党発足等、この約1年間の内で多くの仲間が所属する政党も短期間に大きく変



遷してきました。1年がなんと早く過ぎることかと思感されます。

そして決して風化させてはならない、悲しく辛い自然災害も頻発しました。

東日本大震災をはじめ、熊本地震、各地で発生した豪雨等による甚大な風水害、そして昨年9月に発災した北海道胆振東部地震等、自然災害の脅威を我が身として実感するとともに、防災・減災の重要性と緊急性を改めて強く危機感をもって認識させられました。

現在、基幹労連は「東日本大震災をはじめとする～自然災害に関する政策」を産業政策等と並んで大きな政策課題の柱に据え、自然災害に強い防災・減災を念頭においた国土をめざし要請行動等、積極的に取り組んでいます。

さらには、昨年この「新春を語る」でもご紹介させていただきましたが、国際関係の業務にも携わってきました。特に印象深いイベントは、インド・グジャラート州にあるアラン船舶解撤現場に、危険な現場で日々働く当地の労働者への安全衛生教育や労働組合教育を実施するトレーニングセンター（現地では『アラン労働者の家』と呼ばれています）をインドの金属労組とともに建設・開所させてきたことです。

現在も毎日のように危険な現場で働く仲間の教育に活用され、着実に成果を出していると報告を受けています。

私たち基幹労連に集う仲間の思いが、遠いインドの地で結実し、一人でも多くの働く仲

間の命と健康を、そして家族の生活を守っているとすると感慨深いものがあります。

国際貢献活動は基幹労連の主要な活動の一つです。今後も真の国際貢献活動の実現に向け、検討を進めていくこととなります。

色々と振り返れば、矢のように飛んでいく（過ぎていく）時間の中で、多くのイベントがあり、その都度、周りにいる仲間の“助言と支え”のおかげで今の私があります。本当に感謝しかありません。

最後になりますが、基幹労連は9月に開催した第16回定期中間大会において向こう1年間（第9期後半年）の活動方針を確認しました。活動方針は大きく3本の柱で構成しています。

第一の柱は「安全衛生活動の徹底」、第二の柱は「組織力の再強化と実践力の発揮」、第三の柱は「好循環の追求」です。この全ての活動方針を何が何でもこの一年間で仕上げていかなければなりません。

「光陰如矢時不待人」、時間は決して待ってくれませんし、全ての人に平等に流れていきます。決して時間の流れに身を任せることなく、一つ一つ地道に着実に、そして確実に取り組んでいかなければと考えています。

改めて、この一年間、働く全ての仲間の安全と健康、そしてそのご家族の安寧を心より祈念し、筆（キーボード？）をおさめたいと思います。

ともに頑張りましょう!! ご安全に!